

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

河内明、北出利勝、金睦子、ほか. 慢性腰痛に対する遠赤外線照射を併用した SSP 療法の吟味 東洋医学とペインクリニック 2006; 36(1): 35-42. 医中誌 Web ID: 2007063453

1. 目的

慢性腰痛患者に対する遠赤外線照射を併用した Silver Spike Point (SSP) 療法の効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (封筒法) (RCT envelope)

3. セッティング

大阪医科大学附属病院麻酔科、大阪、日本

4. 参加者

慢性腰痛患者 60 名

5. 介入

Arm 1: SSP 単独群 (30 名)。両側の脾兪 (BL20)、腎兪 (BL23) に 3Hz 同一波形の 15 分間低周波通電。

Arm 2: SSP+遠赤外線照射併用群 (30 名)。Arm1+皮膚から約 30cm の距離での遠赤外線照射。

6. 主なアウトカム評価項目

治療後の苦痛度 (数値スケール法)、治療中の快適性 (VAS 値)

7. 主な結果

慢性腰痛患者では、治療後の苦痛度の改善は Arm 1 で 40%、Arm 2 で 83%、治療中の快適性の VAS 値は Arm 1 で 7.4 ± 1.3 mm、Arm 2 で 8.4 ± 0.9 mm であった。

8. 結論

SSP と赤外線照射の併用は、慢性腰痛患者の苦痛を軽減し、快適性を増加させる。

9. 鍼灸学的言及

慢性腰痛患者の選穴も臨床的に使用頻度の高い経穴から取捨選択した記載がある。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

SSP 療法単独と遠赤外線照射を併用した場合との比較試験である。皮膚温と深部温および組織血流量を同時に測定し、腰痛患者の苦痛度・快適性まで調査した研究であり、客観的指標と主観的評価を同時に測定、検討していることが興味深い。慢性患者に対しては症状に応じて選穴しているが、腰痛のタイプ別と選穴との関係を記載して頂くと臨床応用に役立つと考える。

12. Abstractor

古畑敏子 2011.2.1